

科目名	インタープロフェッショナルワーク特講
科目責任者	豊島 由樹子
単位数他	2単位 (30時間) 必修 春
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、行動規範を示すことができる 2. 専門分野並びに接近分野（領域）の高度な知識・技術を習得し、科学的、論理的かつ創造的な思考力を身に付けている
科目概要	保健医療福祉の連携・協働は地域包括ケアを行う上で必須になっている。本科目では、欧米圏を中心に発展してきた専門職連携・協働（Inter Professional Work）の歴史や理論を学び、我が国における実践と今後について学ぶ。
到達目標	1. IPWの理論と意義を理解する。 2. 欧米圏でのIPWの歴史と発展、理論について理解する。 3. 我が国でのIPWの歴史と発展について理解する。 4. 連携・協働を妨げる問題とその解決法について理解する。 5. 我が国における専門職連携・協働の実際と課題について理解する。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p style="text-align: right;">＜担当教員名＞</p> <p>第1-2回：IPWの意義・我が国におけるIPWの推進 (特に近年の地域包括ケアの観点から) 豊島由樹子、式守晴子、仲村秀子、川村佐和子、 藤田美枝子、谷哲夫、柴本勇、根地嶋誠</p> <p>第3-5回：IPW・IPEの概念整理、我が国の発祥、発展 大嶋伸雄</p> <p>第6-8回：IPW(E)の世界における発祥、発展 IPW(E)の理論の構築 大嶋伸雄</p> <p>第9回：地域包括ケアシステムにおけるIPWの実際 雨宮寛(ゲストスピーカー)</p> <p>第10-12回：信念対立解明理論とその応用 京極真</p> <p>第13-15回：我が国におけるIPWの今後の課題 豊島由樹子、式守晴子、仲村秀子、川村佐和子、 藤田美枝子、谷哲夫、柴本勇、根地嶋誠</p>

学修方法	講義とディスカッションを組み合わせで行います。
評価方法	討論への参加 30%、レポート 70%
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する修正がレポートでなされているかをレポートの評価対象とする。
指定図書	なし
参考図書	『図説 ケアチーム』野中猛著、中央法規出版 『IPWを学ぶ』埼玉県立大学編集、中央法規出版 『信念対立解明アプローチ入門』京極真、中央法規出版
事前・事後学修	自分のテーマに関する IPW 関連の研究に注目し、論文を読んでおくようにしてください。ディスカッションを主体とする授業であるため、積極的な参加を求めます。授業の進捗に合わせて適宜事後学修について指示していきます。
オフィスアワー	豊島：1615 研究室 yukiko-t@seirei.ac.jp (看護学研究科) 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	インタープロフェSSIONALワーク演習
科目責任者	豊島 由樹子
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 秋
科目の位置付	1. 「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、行動規範を示すことができる 2. 専門分野並びに接近分野（領域）の高度な知識・技能を習得し、科学的、論理的かつ創造的な思考力を身に付けている 6. 連携・協働においてリーダーシップを発揮して、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる
科目概要	保健医療福祉における連携・協働の実際にある様々な課題を、IPW の視点から多職種によるグループで討論し、IPW に必要な能力を修得する。
到達目標	1. 日常の業務にある IPW の実践における課題を取り上げることができる。 2. 自らの専門性を踏まえて、多専門職種と IPW の課題について討論できる。 3. IPW 実践の課題について理論を用いて分析し、解決策を検討できる。
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p style="text-align: right;">＜担当教員名＞</p> <p>第 1-2 回：オリエンテーション 1) 日常の業務にある IPW の実践を抽出する。 豊島由樹子、式守晴子、仲村秀子、川村佐和子、藤田美枝子、谷哲夫、柴本勇、根地嶋誠</p> <p>第 3-5 回： 2) IPW 実践に課題のある事例について多職種でグループ討論を行う 豊島由樹子、式守晴子、仲村秀子、川村佐和子、藤田美枝子、谷哲夫、柴本勇、根地嶋誠</p> <p>第 6-7 回： 3) IPW 実践の課題について、理論を用いてその解明にむけて問題点を抽出する 京極真</p> <p>第 8-10 回： 4) IPW 実践の課題について、解明に向けて実践を分析する 豊島由樹子、式守晴子、仲村秀子、川村佐和子、藤田美枝子、谷哲夫、柴本勇、根地嶋誠</p> <p>第 11-12 回： 5) 課題の生じていた IPW 実践について、理論を用いて解明や解決策を検討する 京極真</p> <p>第 13-15 回： 6) グループ発表と討論、まとめ 豊島由樹子、式守晴子、仲村秀子、川村佐和子、藤田美枝子、谷哲夫、柴本勇、根地嶋誠</p>

学修方法	ディスカッションを行います。自職場などにおける日常の業務にある IPW 実践をまとめておいてください。
評価方法	発表・討論への参加 50%、レポート 50%
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する修正がレポートでなされているかをレポートの評価対象とする。
指定図書	なし
参考書	なし
事前・事後学修	自分のテーマに関する IPW 関連の研究に注目し、論文を読んでおくようにしてください。ディスカッションを主体とする授業であるため、積極的な参加を求めます。授業の進捗に合わせて適宜事後学修について指示していきます。
オフィスアワー	豊島：1615 研究室 yukiko-t@seirei.ac.jp (看護学研究科) 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	リーダーシップ特講
科目責任者	小野 善生
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	2. 専門分野並びに接近分野（領域）の高度な知識・技能を習得し、科学的、論理的かつ創造的な思考力を身に付けている 6. 連携・協働においてリーダーシップを発揮して、人々の健康、福祉、安寧に貢献することができる
科目概要	組織やチームにおいて活動するにあたって、リーダーとメンバーとの人間関係によってそのパフォーマンスは影響を受ける。とりわけ、リーダーによるリーダーシップとメンバーによるフォロワーシップが機能するかどうかは重要である。本講義では、リーダーシップを中心に、フォロワーシップもふまえて、講義および討議を通じて知識の習得さらには実践への応用力を身につけることを目指します。
到達目標	1. リーダーシップの基礎から応用までの知識の習得 2. フォロワーシップに代表されるリーダーシップに関連する知識の習得 3. リーダーシップを実践するにあたっての知見の涵養
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：リーダーシップとは</p> <p>第2回：組織論における人間観</p> <p>第3回：事例研究（リーダーに求められるもの）</p> <p>第4回：リーダーシップの行動特性</p> <p>第5回：事例研究（リーダーシップの行動特性）</p> <p>第6回：カリスマ的・変革型リーダーシップ</p> <p>第7回：事例研究（カリスマ的・変革型リーダーシップ）</p> <p>第8回：フォロワーの目から見たリーダーシップ</p> <p>第9回：事例研究（フォロワーの目から見たリーダーシップ）</p> <p>第10回：サーバントリーダーシップ</p> <p>第11回：事例研究（サーバントリーダーシップ）</p> <p>第12回：フォロワーシップ</p> <p>第13回：事例研究（フォロワーシップ）</p> <p>第14回：リーダーシップ開発論・管理者行動論</p> <p>第15回：事例研究（リーダーシップ開発論・管理者行動論）</p>

学修方法	講義および映像資料の視聴を通じての討論
評価方法	授業への積極的な取り組み 80%          課題レポート 20%
課題に対するフィードバック	レポートに対するフィードバックコメント
指定図書	小野善生 (2013) . 『最強のリーダーシップ論集中講義』 日本実業出版社 小野善生 (2018) . 『リーダーシップ徹底講座-すぐれた管理者を目指す人のために-』 中央経済社
参考書	金井壽宏 (2005) . 『リーダーシップ入門』 日経文庫 小野善生 (2016) . 『フォロワーが語るリーダーシップ-認められるリーダーの研究-』 有斐閣
事前・事後学修	テキストおよび参考書を通じての予習と復習、毎回の授業につき、それぞれ2時間程度。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	保健科学研究方法特講 I																															
科目責任者	市江 和子																															
単位数他	2 単位 (30 時間) 選択 春																															
科目の位置付	(4) 独創的かつ先端的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿って研究を実施し、論文としてまとめ発表し、専門分野・領域の発展に寄与することができる (自立して研究ができる)。																															
科目概要	保健医療福祉の知識基盤を発展させるため、ケアの成果 (アウトカム) を検証する研究方法論及び方法 (デザイン) について知識を深める。また、成果・ケア介入研究 (リサーチ) の妥当性と信頼性を高める方法論について学修する。加えて、院生各自の研究課題・疑問に応じて、概念分析・文献検討で研究方法を構築する専門的能力を養う。																															
到達目標	1. 受講生の研究課題・疑問を説明ができる。 2. 受講生の関心領域の文献検討ができる。 3. 受講生各自の研究課題・疑問を明確にすることができる。																															
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">第 1 回：ガイダンス</td> <td style="width: 30%;">市江和子</td> </tr> <tr> <td>第 2 回：研究計画の根拠と文献検討</td> <td>市江和子</td> </tr> <tr> <td>第 3 回：文献検討</td> <td>酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第 4 回：文献クリティーク</td> <td>酒井昌子</td> </tr> <tr> <td>第 5 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法① (質的記述的研究)</td> <td>市江和子</td> </tr> <tr> <td>第 6 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法② (GTA)</td> <td>市江和子</td> </tr> <tr> <td>第 7 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法③ (M-GTA)</td> <td>市江和子</td> </tr> <tr> <td>第 8 回：リハビリテーション科学研究を理解し、文献検索を行う</td> <td>矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第 9 回：リハビリテーション科学研究の文献検討を行う</td> <td>矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第 10 回：リハビリテーション科学研究の動向について検討する</td> <td>矢倉千昭</td> </tr> <tr> <td>第 11 回：ソーシャルワークにおける地域介入研究</td> <td>野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第 12 回：マイクロ・メゾ・マクロの 3 レベルと評価方法と介入研究</td> <td>野田由佳里</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)</td> <td>市江和子</td> </tr> <tr> <td>第 14 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)</td> <td>市江和子</td> </tr> <tr> <td>第 15 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)</td> <td>市江和子</td> </tr> </table>		第 1 回：ガイダンス	市江和子	第 2 回：研究計画の根拠と文献検討	市江和子	第 3 回：文献検討	酒井昌子	第 4 回：文献クリティーク	酒井昌子	第 5 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法① (質的記述的研究)	市江和子	第 6 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法② (GTA)	市江和子	第 7 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法③ (M-GTA)	市江和子	第 8 回：リハビリテーション科学研究を理解し、文献検索を行う	矢倉千昭	第 9 回：リハビリテーション科学研究の文献検討を行う	矢倉千昭	第 10 回：リハビリテーション科学研究の動向について検討する	矢倉千昭	第 11 回：ソーシャルワークにおける地域介入研究	野田由佳里	第 12 回：マイクロ・メゾ・マクロの 3 レベルと評価方法と介入研究	野田由佳里	第 14 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子	第 14 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子	第 15 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子
第 1 回：ガイダンス	市江和子																															
第 2 回：研究計画の根拠と文献検討	市江和子																															
第 3 回：文献検討	酒井昌子																															
第 4 回：文献クリティーク	酒井昌子																															
第 5 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法① (質的記述的研究)	市江和子																															
第 6 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法② (GTA)	市江和子																															
第 7 回：質的研究方法論を用いるためのデータ収集方法③ (M-GTA)	市江和子																															
第 8 回：リハビリテーション科学研究を理解し、文献検索を行う	矢倉千昭																															
第 9 回：リハビリテーション科学研究の文献検討を行う	矢倉千昭																															
第 10 回：リハビリテーション科学研究の動向について検討する	矢倉千昭																															
第 11 回：ソーシャルワークにおける地域介入研究	野田由佳里																															
第 12 回：マイクロ・メゾ・マクロの 3 レベルと評価方法と介入研究	野田由佳里																															
第 14 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子																															
第 14 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子																															
第 15 回：研究課題・疑問 (最終プレゼンテーション)	市江和子																															

学修方法	セミナー形式で、そのセッションの中心課題についての学生のプレゼンテーション・討論を中心に行う
評価方法	プレゼンテーション 30%、クラス貢献度 20%、最終発表・レポート 50%
課題に対するフィードバック	クラス内での発表担当院生のプレゼンテーションの情報、教員および他の院生との討議で、フィードバックし、理解を深める。
指定図書	なし。
参考書	授業時に随時連絡
事前・事後学修	随時指定
オフィスアワー	<p>市江和子：看護学研究科 1712 研究室 (<a href="mailto:kazuko-i@seirei.ac.jp">kazuko-i@seirei.ac.jp</a>)  時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p> <p>酒井昌子：看護学研究科 3410 研究室 (<a href="mailto:masako-s@seirei.ac.jp">masako-s@seirei.ac.jp</a>)  時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。</p> <p>矢倉千昭：リハビリテーション科学研究科 3504 研究室 (矢倉研究室)  時間：木曜日の 6 時限目 (18 時 00 分～19 時 30 分)  上記以外でもメール (<a href="mailto:chiaki-y@seirei.ac.jp">chiaki-y@seirei.ac.jp</a>) で遠慮なくアポイントを取ってください</p> <p>野田由佳里：社会福祉学研究科 2706 研究室 (野田研究室)  時間：金曜日の 7 時限目 (18 時 00 分～19 時 30 分)  上記以外でもメール (<a href="mailto:yukari-n@seirei.ac.jp">yukari-n@seirei.ac.jp</a>) での対応可能です。</p>

科目名	保健科学研究方法特講Ⅱ
科目責任者	西川浩昭
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	4. 独創的かつ先端的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる 5. 研究計画に沿って研究を実施し、論文としてまとめ発表し、専門分野・領域の発展に寄与することができる (自立して研究ができる)
科目概要	複雑な保健科学現象を明らかにし、説明するための一連の手法を教授する。多様な保健科学現象を記述するために必要とされるデータの収集方法、質問紙尺度の作成法、その信頼性、妥当性の検証法、さらには、メタ分析、生命表分析についてもその概略を解説する。データの解析方法として、単純集計、統計学的検定、さらに応用的手法として主成分分析、因子分析、重回帰分析、多重ロジスティックモデル；構造方程式モデル (パス解析、共分散構造分析)、比例ハザードモデル、といった多変量データ解析の方法と得られた結果の見方と最新の動向について紹介する。さらに、提供するさまざまな事例 (生活習慣尺度、新老人の生活習慣と健康状態の関連) に関するデータ、あるいは自分で収集したデータを用いて、学生自らがSPSSによって分析し、レポートの作成、及び発表会を行う。第1~4回はSPSSの使い方を含め、統計の基礎についての講義・演習を行う。
到達目標	1. 保健科学的研究方法についての以下の一連のプロセスを学ぶ。 ①データの収集法 ②収集したデータの特徴を記述する方法(記述統計学) ③標本データから母集団についての推測の方法(推測統計学)と検定方法(統計学的検定) ④保健科学的研究法としての、多変量の関連分析法(多変量解析)の概要と重要性 ⑤統計的分析結果の解釈法 2. 文献の批判的読み方(特に統計的手法に焦点を絞る)について学ぶ。
授業計画	<授業内容・テーマ等>  第1回：ガイダンス、統計学の基礎(記述統計学) 分布、平均、標準偏差、その他の代表値 第2回：統計学の基礎(推測統計学) 検定、分散分析、一元配置、多重比較 第3回：統計学の基礎 2変量の関係(相関係数、単回帰分析) 第4回：統計学の基礎 必要な標本数、効果量 第5回：多変量解析(1) 重回帰分析、判別分析 第6回：多変量解析(2) 多重ロジスティック回帰分析 第7回：多変量解析(3) 主成分分析 第8回：多変量解析(4) 因子分析と尺度構成 第9回：構造方程式モデル(1) パス解析、確認的因子分析 第10回：構造方程式モデル(2) 共分散構造分析、多母集団モデル 第11回：生存時間データ解析 生命表解析、カプランマイヤー法、比例ハザードモデル 第12回：データ収集方法 郵送法、集団記入法、配布回収法、その他 第13回：テストの妥当性と信頼性 内容妥当性、構成概念妥当性、基準関連妥当性、信頼性係数 第14~15回：演習・発表・まとめ

学修方法	講義と演習の併用、遠隔授業の予定はありません。
評価方法	出席状況・授業態度(30%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(30%)
課題に対するフィードバック	発表時に内容・問題点について個別にコメントし、そのコメントに対する修正がレポートでなされているかをレポートの評価対象とする。
指定図書	『SPSS による統計データ解析～医学・看護学、生物学、心理学の例題による統計学入門』改訂版
参考書	『やさしい統計入門ー視聴率調査から多変量解析まで』田栗・藤越他(2007)、講談社 『Q&A で知る統計データ解析 第2版』繁樹・柳井・森編著(2008)、サイエンス社 『多変量解析実例ハンドブック』柳井・岡太・繁樹・高木・岩崎編著(2002)、朝倉書店 『エビデンスのための看護研究の読み方：進め方』高木、林(2006)、中山書店 『統計学と何か：偶然を生かす』ラオ著：藤越・柳井・田栗訳(2010)、ちくま学芸文庫 『看護を測る、因子分析による質問紙調査の実際』柳井・井部(2012)、朝倉書店 『複雑さに挑む科学ー多変量解析入門』柳井・岩坪(1976)、講談社(現在絶版)
事前・事後学修	初回までに SPSS の使い方を予習しておくこと(3~4 時間)。 事後学修：前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望めます。各人の必要に応じて学修してください。目安の時間は各回約 60 分(30~90 分)です。
オフィスアワー	西川浩昭(1620 研究室) E-mail: hiroaki-ni@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	保健科学英語特講 (English Special Lecture on Health Sciences)
科目責任者	小林 マヤ
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	7. 海外の専門職者、研究者や学生と交流し、グローバルリーダーとしての活躍を志向できる
科目概要	保健科学に関連する英語文献を読みながら、医療系論文の概要と特徴を学び、英語論文を書く基礎を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の論理構造や特徴を日本語と比較しながら理解する。</li> <li>2. 英語論文の基本的英語表現やフォーマットなどに慣れる。</li> <li>3. 自分の研究のアブストラクトを書いてみる。</li> </ol>
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回: Guidanc : 皆さんの研究内容を日本語でまとめてきてください。 小林 マヤ</p> <p>第2回: Difference between English and Japanese 小林 マヤ</p> <p>第3回: Difference between English and Japanese 小林 マヤ</p> <p>第4回: Reveiw of Medical Terms 小林 マヤ</p> <p>第5回: Reveiw of Medical Terms 小林 マヤ</p> <p>第6回: Lectures on Outlines of Medical Papers 小林 マヤ</p> <p>第7回: Reading Papers and APA 小林 マヤ</p> <p>第8回: Reading Abstracts 小林 マヤ</p> <p>第9回: Reading Papers 柴本勇</p> <p>第10回: Reading Papers 柴本勇</p> <p>第11回: Writing Exercises 柴本勇</p> <p>第12回: Writing Exercises 柴本勇</p> <p>第13回: Writing Abstracts 柴本勇</p> <p>第14回: Writing Abstracts 柴本勇</p> <p>第15回: Summary 柴本勇</p>

学修方法	講義、演習、発表
評価方法	授業参加活動 40%、小テスト、論文読解発表、abstract 作成などの評価 60%
課題に対するフィードバック	小テスト返却、論文読解発表へのコメント、英作文課題と abstract へのコメント
指定図書	<i>English for Medical Students</i> 神山省吾、他 著、南雲堂
参考書	『うまい英語で医学論文を書くコツ』植村研一著、医学書院 『看護論文を英語で書く』エリザベス M. トークイスト著、医学書院
事前・事後学修	適宜知らせる。
オフィスアワー	小林マヤ 所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3402 研究室 水曜日：17：00～18：00 上記以外でもメール (maya-k@seirei.ac.jp) で遠慮なくアポイントを取ってください。 柴本勇 所属：リハビリテーション科学研究科 研究室：3408 メール：isamu-s@seirei.ac.jp